

平成 20 年度授業評価実施状況調査票

学部等名 大学教育・学生支援機構

1. 実施状況

	合 計		内 訳			
			前 期		後 期	
	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数
学 部	212	6,323	106	3,281	106	3,042

2. 実施組織

大学側： 大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部会

学生側： なし

3. 実施方法

年度当初に実施科目を大学教育センター運営委員会で選定（平成20年度は、外国語）開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。

上記の実施状況（科目数、アンケート回収枚数）以外

「教養教育全体アンケート」として教養教育科目履修学生全員にアンケート用紙配付
配付方法：必修科目の授業時に配付・アンケート記入後に回収
回収枚数：932枚
回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。

4. 評価結果から判断できる教育の成果や効果（学生の授業に対する参加度，理解度，学習意欲及び満足度など）(参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点6-1-参照)

<英語・英語以外の外国語>

十分な自己学習をして、授業に取り組んだ学生が、約6割となっているほか、教員の授業に対する熱意、授業の理解度、成績評価基準の説明など、約7割以上の学生が、高い満足度を示している。

<教養教育全体>

教養教育のカリキュラム、教員の教え方について、約5割の学生が、肯定的な意見を示しているほか、シラバスは約6割、履修手引・授業案内は約9割の学生が活用したと答えている。

また、授業科目においては、学修原論、総合科目、情報処理、健康科学で約7割、英語、英語以外の外国語、分野別科目及び学部別科目で約5割の学生が、授業内容に肯定的な意見を示している。

5. 学生との懇談会等の実施状況

名 称	実施月日	大 学 側 参加者数	学 生 側 参加者数	内 容
学長と学生との懇談会	H20. 4.30	6	57	学生の意向・要望を聴取することを目的とする。

6. 学部等において、評価結果や懇談会等での意見を教育の質の向上、改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

学長と学生との懇談会において出された意見・要望についてすぐに改善できるもの（例：トイレの目隠しや喫煙指定場所の移動等）は、実施した。その他生協へも通知し、可能な範囲での対応を行う旨の回答を得た。

7. 個々の教員において、評価結果や懇談会等での意見を授業改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

「授業全般」について、授業評価の結果における「OA機器を利用した授業は、ノートに取りづらく理解しにくい」との意見を踏まえ、19年度から適切に板書を併用することを実施した。
また、「板書をゆっくりする」や「マイクを使う」を併せて実施し、学生の理解度を高めた。

8. FD活動の実施状況

実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部会	ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業	H20. 5. 9	80	最優秀候補者5人による公開模擬授業を実施した。

9. FD活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例

（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-2-参照）

大学教育改善の一貫として、「教育改善推進テーマ」の策定を行い、7テーマ（キャリアデザイン教育、国際理解教育、環境教育、英語教育、数学教育、情報処理教育、物理教育）を指定して、その改善を支援した。

例えば、数学教育科目では、学力の低い学生に対する補習的なクラスと高度な数学のクラスの2クラスを開講し、数学学力にやや不安のある学生に配慮したクラス編成を行っている。

工学部では、高校レベルの数学は既習事項となっているので、不安のある学生については、本科目を受講することで補っている。

10. その他特記事項

特になし

11. 根拠資料（「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」、「授業評価報告書」等）

学長と学生との懇談会における要望・意見等

平成 20 年度授業評価実施状況調査票

学部等名 教育学部・教育学研究科

1. 実施状況

	合 計		内 訳			
			前 期		後 期	
	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数
学 部	514	11,928	280	7,157	234	4,771
研 究 科	197	802	99	471	98	331

2. 実施組織

大学側： 学部長、授業評価ワーキンググループ

学生側： なし(フィードバック時:学生連絡会)

3. 実施方法

学部で開講される全授業を対象とし、前後期とも第 12 回目以降の授業終了時間の直前に実施した。教員退出後、受講生代表がアンケート用紙の配付・回収及び教務係への提出を行った。なお、教育学部開講授業は多種多様な分野・授業形態を含むため、評価項目欄に授業担当教員が授業に係る設問を 1 つ追加できるようにして授業評価を行った。

各教員への授業評価アンケート実施の依頼に際し、授業改善報告書の書式と記入例を添付した。なお、本書式での授業評価が適当でない授業に対してはその旨を記述した報告書の提出を要請した。

授業評価アンケートとは別に、学生から授業全般の改善に係る意見を直接に求めるために「意見箱」が設置されている旨の学生への周知を図り、そのための投書用カードの配付を行った。

4. 評価結果から判断できる教育の成果や効果（学生の授業に対する参加度，理解度，学習意欲及び満足度など）(参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点 6 - 1 - 参照)

学生の授業への参加度は「良い・やや良い」の合計で 89.8%となり、平成 19 年度の約 89.2%より増大している。一方、授業の総合評価では「優・やや優」の合計で 91.1%と、平成 19 年度同様 91%を超える評価が継続されている。また、『授業から特に得たもの』では「教養・知識」が 66.1%と例年同様大きな値を示すが、「教師になったとき役立つ」(44.5%)、「技能・実践的能力」(27.0%)、「考える力・問題解決力」(21.9%)がいずれも前年に比べ、0.5%程度増加している。

これらの結果は、教育現場を意識した授業が増えてきていることを反映していると考えられ、授業改善の効果が徐々に上がってきていることを示している。この努力を今後とも継続していく必要がある。

5. 学生との懇談会等の実施状況

名 称	実施月日	大 学 側 参加者数	学 生 側 参加者数	内 容
学部長と学生との懇談会	12月10日	20人	50人	学内勉学環境・生活環境、履修登録のオンライン化、後期における3年次生への勉学支援等、ISOについて、等。

6. 学部等において、評価結果や懇談会等での意見を教育の質の向上、改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

教員への授業評価改善アンケート調査結果によれば、ほぼ全員の教員が何らかの授業改善を行っている。改善内容は多岐にわたるが、半数以上の教員が「内容・課題の難易度の見直し」「授業の進め方のスピード」「説明のわかりやすさ」などの検討改善を行っている。

7. 個々の教員において、評価結果や懇談会等での意見を授業改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

本年度2月に全教員に対し、「授業改善アンケート」を実施した。回答数76名。回答者全員が学生による授業評価アンケート結果に目を通し、対応の必要の有無を検討していた。その結果、ほぼ全員が、「授業の改善を試みた」「ある程度試みた」ことが判明した。特に改善を試みた内容は、教育学部の授業の多様性を反映して、多岐にわたっている。このアンケート結果の概要は教授会にて報告した。

8. FD活動の実施状況

実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
教務委員会	教務委員会	5/9、10/25、 11/26、12/4、 12/15、1/15、 3/3	延べ97名 +10/25 +3/3	ベストティーチャー公開授業、特設の公開授業、Moodle研修会、公開シンポジウム、専門職学位課程授業研究会

9. FD活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例

（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-2-参照）

昨年度同様、学部内の全授業を学部教員に原則公開し、また、特設の公開授業のDVD収録も継続した。授業公開が不相当である旨の申請があった授業は本年度なかった。また、Moodleの利活用についての具体的検討が開始された。大学院のFDの一環として、教員の質向上に関する公開シンポジウムを開催し、また、専門職学位課程における授業研究会を行った。

なお、特設の授業公開への参加教員数は通常5～6名程度であり、必ずしも多いとはいえない。これは通常の時間帯の授業を公開すること、公開授業用に特別の教室を配当することが難しく、収容人数に制限があること、などのためであり、公開授業のDVD収録での対応が現況での有効な方法と判断される。

10. その他特記事項

学部長と学生との懇談会では、特定の授業に係る意見・要望は無く、教育設備・教育環境に係る意見が1件出された。その件はMoodleの利活用の検討の中で近い将来に整備されていく旨説明された。また、新教育実習方法導入初年度の本年、実習終了後の後期における3年生への勉学支援についての質問が1件出された。介護等体験の実施、3年生向けの集中講義の開講、などの対応を学部として事前に設定し、教育実践インターシップの導入も検討してきたことなどを説明した。本年度末に、学部教員を対象に、3年生の後期における勉学支援に係るアンケート調査を行い、次年度教務委員会にその結果の申し継ぎを行い、平成21年度後期への対応を求めた。

11. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」,「授業評価報告書」等)

- ・ 授業評価アンケート集計結果
- ・ " 用紙
- ・ 授業改善アンケート実施結果報告
- ・ " 用紙
- ・ 公開シンポジウムのポスター

平成 20 年度授業評価実施状況調査票

学部等名 社会情報学部

1. 実施状況

	合 計		内 訳			
			前 期		後 期	
	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数
学 部	392	4,758	198	2,617	194	2,141

2. 実施組織

大学側：F D推進専門委員会

学生側：なし

3. 実施方法

- (1) 各学期に開講されているすべての科目のアンケート用紙と回収用封筒を教員別に袋詰めしたものを総務係に用意し、各教員がそれを引き取る。
- (2) 教員は、最終授業の終了10分前にアンケート用紙を配布し、学生の中から回収責任者2名を指名して退室する(回収責任者には、封筒に貼付されているマニュアル通りに回収作業を行うよう指示する)。
- (3) 回収責任者は、アンケート用紙を回収した後、封筒に入れ、事務室に提出する。

4. 評価結果から判断できる教育の成果や効果(学生の授業に対する参加度,理解度,学習意欲及び満足度など)(参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点6-1-参照)

授業評価の結果に関しては、評価結果を各教員に返却し、各教員が授業の成果や効果を分析し、次年度の授業に反映させている。

また、「学部長と学生との懇談会」においては、教養科目や専門科目の履修やコンピュータ使用などに関して、学生から質問が寄せられ、各質問に対し、学部長、学科長、教務委員等が丁寧に応答し、学生の理解を得ることができた。

5. 学生との懇談会等の実施状況

名 称	実施月日	大 学 側 参加者数	学 生 側 参加者数	内 容
学部長と学生との懇談会	H20.10.22	16	9	学生から意見・要望を聴取し、これに対する説明・確認を行う。

6. 学部等において、評価結果や懇談会等での意見を教育の質の向上,改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例(参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照)

教育の質の向上を目指し、F D公開授業ではアンケートを課して、授業の参考としている。また、授業後の懇談会では、教員同士が問題点や評すべき点を出し合って、授業の反省材料としている。さらに、学生から聴取した意見を踏まえ、履修の手引きをより分かりやすく修正した。

7. 個々の教員において、評価結果や懇談会等での意見を授業改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

個々の教員が授業改善に努めている。例えば、語学系教員は群馬大学外国語教員ネットワーク(GNT)を組織して、アンケート調査や教員間の話し合いを行っている。

8. FD活動の実施状況

実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
社会情報学部	FD推進専門委員会	H20.12.9 H20.12.19 H21.1.20	14	学部及び大学院の公開授業の実施

9. FD活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例

（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-2-参照）

FD推進専門委員会から各教員に、アンケート内容をよく吟味し、各科目の第1回授業の際に、「前年度の授業評価の結果を踏まえて、本年度はどの部分をどのように改善していくことになったのか」を伝えるよう依頼している。

10. その他特記事項

学生が授業にどのように取組んでいるかについても調査し（設問7～設問9）、各教員がその把握に努めている。

ベストティーチャー賞選考の根拠資料としている。

11. 根拠資料（「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話し合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」、「授業評価報告書」等）

- ・集計結果
- ・アンケート用紙
- ・学部長と学生との懇談会報告

平成 20 年度授業評価実施状況調査票

学部等名 医学部医学科

1. 実施状況

	合 計		内 訳			
			前 期		後 期	
	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数
学 部	14	34	8	20	6	14

2. 実施組織

大学側： 医学部教務委員会医学科教務部
会

学生側： 学友会・授業向上委員会

3. 実施方法

学友会の授業向上委員会が主体となり、自主的なアンケート調査を行い、学生の視点からの分析結果を医学教育教授法ワークショップにおいて発表し、各教員にフィードバックしている。

また、この結果は、医学部医学科ベストティーチャー賞の選定に活用されている。

4. 評価結果から判断できる教育の成果や効果（学生の授業に対する参加度，理解度，学習意欲及び満足度など）（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点6-1-参照）

アンケート調査は毎年実施しているため、授業に関する細部についての指摘が翌年の授業改善やカリキュラム改善に十分にフィードバックしている。

5. 学生との懇談会等の実施状況

名 称	実施月日	大 学 側 参加者数	学 生 側 参加者数	内 容
医学科学友会との懇談会	H20. 6.30	15	30	授業・実習等について
	H21. 1.26	16	28	

6. 学部等において、評価結果や懇談会等での意見を教育の質の向上，改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

学生代表と教員が教育環境，カリキュラムなどについての懇談会を年2回開催している。

また、授業評価に係るアンケート調査結果に基づき、各教員は授業方法の工夫や改善意識を養うとともに、教育改革への積極的な取組を行っている。

7. 個々の教員において、評価結果や懇談会等での意見を授業改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

学生による教員評価と教員相互の評価を行い、毎年12月には優秀な教員にベストティーチャー賞を与え顕彰している。各教員はこれらを踏まえ、授業方法の工夫を行うとともに教育能力の向上に努めている。

8. FD活動の実施状況

実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
医学科教務部会	医学教育教授法ワークショップ	H20.12.6	120	・教員の教育業績評価について ・臨床実習教育のさらなる充実方策について

9. FD活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例

（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-2-参照）

医学教育の質の向上と先進的取り組みに向けたFDを毎年開催している。20年度は顕彰された教員の模範授業と、クラークシップチューターによる臨床実習の支援やアドバンストOSCEの実施方法、スキルラボの活用、moodleの活用について、などをテーマに実施した。

10. その他特記事項

11. 根拠資料（「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」、「授業評価報告書」等）

- ・平成20年度医学教育教授法ワークショップ配付資料
- ・学生の授業向上委員会発表資料

平成 20 年度授業評価実施状況調査票

学部等名 医学部保健学科

1. 実施状況

	合 計		内 訳			
			前 期		後 期	
	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数
学 部	258	7,020	155	4,077	103	2,943

2. 実施組織

大学側：保健学科教育課程専門委員会

学生側：保健学科学友会

3. 実施方法

別紙アンケート用紙により前・後期とも学外で行われる臨床実習等を除いて、全ての科目を対象に実施した。アンケート用紙の配付及び回収は、学生の主体性を尊重する意味から学生が実施している。

なお、20年度からアンケート用紙（質問事項）を変更した。

4. 評価結果から判断できる教育の成果や効果（学生の授業に対する参加度，理解度，学習意欲及び満足度など）（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点6-1-参照）

20年度の授業評価結果は、総合評価において5段階評価の 又は が70%以上で 又は と評価したものは5%以下である。このことから、学生の授業に対する満足度は向上していると判断できる。また、学生の授業に対する出席率や積極度は高い反面、予習・復習に費やす時間が1時間未満又は予習・復習しないものが約70～80%を占めている。

5. 学生との懇談会等の実施状況

名 称	実施月日	大 学 側 参加者数	学 生 側 参加者数	内 容
学友会との懇談会（第1回）	20. 6.10	19名	20名	別紙のとおり
学友会との懇談会（第2回）	21. 1.20	15名	30名	別紙のとおり

6. 学部等において、評価結果や懇談会等での意見を教育の質の向上，改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

授業評価結果や懇談会等での意見をもとに講義室の消耗品類（チョーク、マーカー）の補充、マイクの設置、保守点検を随時行い教育環境の整備に努めている。

7. 個々の教員において、評価結果や懇談会等での意見を授業改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-1-参照）

個々の教員においては、授業評価結果や懇談会等での意見をもとに授業1回毎に学生から感想や意見を提出してもらい、その後の授業改善に役立っている。

8. FD活動の実施状況

実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
教育課程専門委員会	ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業	H20. 5. 25	50	ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業
教育課程専門委員会	保健学教育ワークショップ	H21. 3. 6	73	教育方法改善のための検討

9. FD活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例

（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9-2-参照）

上記の実施状況に記載したとおり、「ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業」を実施して各教員の授業内容の向上に努めている。また、「教育方法改善のための検討」をテーマにしたワークショップでは、外部講師を招聘して教材の有効な活用法等についての研究を行った。

10. その他特記事項

特になし。

11. 根拠資料（「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」、「授業評価報告書」等）

- ・ 授業評価アンケート集計結果
- ・ " " 用紙
- ・ 保健学科学友会との懇談会資料

平成 20 年度授業評価実施状況調査票

学部等名 工学研究科・工学部

1. 実施状況

	合 計		内 訳			
			前 期		後 期	
	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数	実施科目数	アンケート回収枚数
学 部	173	10,384	88	5,840	85	4,544
研究科	67	1,490	37	1,063	30	427

2. 実施組織

大学側：評価委員会委員

学生側：ワーキンググループ

3. 実施方法

学部・大学院とも全教員が通年で少なくとも1科目は授業評価を受けることとして実施した。ただし、大学院については助教と本年度担当科目がない教員は除く。

学生側には各学科・専攻ごとに授業評価アンケートの実施、用紙の配布・集計をおこなうワーキンググループを組織してもらい、これが主体となってアンケートをおこなった。

これと並行して、期間（2週間）を設けて公開授業をおこない、教員相互の授業評価も実施した。

また 後期においては Moodle を利用した授業評価アンケートを学部の1学科において試行的に実施した。

4. 評価結果から判断できる教育の成果や効果（学生の授業に対する参加度，理解度，学習意欲及び満足度など）（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点6-1-参照）

ここ数年来の 授業評価アンケートの実施とその結果の各教員へのフィードバックにより、各教員の授業方法は格段に改善され、その結果、学生の授業に対する理解度や満足度は格段に向上していると言える。

5. 学生との懇談会等の実施状況

名 称	実施月日	大 学 側 参加者数	学 生 側 参加者数	内 容
学生との懇談会（生化3年）	H20. 4.25	2	12	授業評価アンケートの結果、各教員からの回答の報告と学生との懇談。
学生との懇談会（応化・材料3年）	H20.11.28	4	10	
学生との懇談会（生化3年）	H20.10.23	2	4	
学生との懇談会（応化・生化2年）	H20.12. 8	6	0	
学生との懇談会（機械・2年）	H20.10. 9	8	4	
学生との懇談会（機械・3年）	H20.10.20	8	3	
学生との懇談会（機械（夜）3年）	H20.10.23	7	4	
学生との懇談会（機械（院）1年）	H20.10.24	5	4	
学生との懇談会（生産）	H20.12.15	2	4	
学生との懇談会（環境プロセス）	H20. 6.23	2	8	
学生との懇談会（環境プロセス）	H20. 8. 8	3	7	

学生との懇談会（社会環境デザイン）	H20.11.11	8	8	
学生との懇談会（社会環境デザイン）	H21. 4. 8	8	7	
学生との懇談会（電気電子）	H20.10.28	1	8	
学生との懇談会（情報）	H21.1月下旬			メールでの意見交換

6．学部等において、評価結果や懇談会等での意見を教育の質の向上、改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9 - 1 - 参照）

アンケート結果をもとに、各教員には改善案などの対応をお願いすると同時に、ワーキンググループと教員との懇談会を各学科ごとに開催した。その席で出た主要な意見を各教員に伝え、各学科・学部全体で共有する体制をとり、すぐに改善可能な点（板書をゆっくりとする、マイクを利用する等）についてはすでに対処している。また、学生の共通的な意見で評価の高い点、要望点については、それらをまとめて全教員に伝え、学生の意識に適切に対応できるようにしている。これによって、問題点などについての教員側の共通認識を持つようにしている。

7．個々の教員において、評価結果や懇談会等での意見を授業改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9 - 1 - 参照）

授業評価アンケートの結果を各教員にフィードバックし、それを踏まえて、授業改善の具体的方策などに関する報告書を各教員ごとに作成した。

8．FD活動の実施状況

実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
工学研究科	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業	H20. 9.29	約 100	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業
工学研究科 機械システム工学専攻	演習科目におけるグループ学習の導入	20年度後期	3	2クラス制で実施している演習授業において、グループ学習形式、通常の学習形式の2種類で実施し、教育効果や学生の反応などについて調査した。

9．FD活動に基づく授業改善の取組及び具体的な改善事例

（参考資料「大学評価基準の分析に当たっての留意点等について」観点9 - 2 - 参照）

- ・ 期間を設け授業公開をし、各教員ごとに報告書を作成した。また、ベストティーチャーによる公開模擬授業も行い各教員の授業方法の改善に役立てた。
- ・ グループ学習を通して、多様化する学生集団から、1)グループを先導しながら問題を解決していく能力を誘発させる(リーダーシップ能力の発現)、2)グループ内の学生相互の深い議論の中から問題解決能力を涵養させる、ことを目的として、2クラス制で実施している「機械システム工学総合演習」においてグループ学習形式、通常の学習形式の2種類で演習を行い、教育効果や学生の反応などについて調査し、グループ学習の有用性と問題点を明らかにするとともに、授業方法の改善を行った。

10. その他特記事項

20年後期に試行的に実施した Moodle を使った授業評価アンケートでは回答率が4割程度であった。同じ学科で20年前期にアンケート用紙を利用した際の回答率は8割程度であったので非常に低い回答率となった。これは、授業時間外に端末のところまでアンケートを答えに行かなければならないこと、moodle が学生の中に浸透していないこと、匿名性の問題などが理由として考えられる。特に匿名性について憂慮している学生が多く、用紙でのアンケートの方が良いという意見も多かった。

11. 根拠資料(「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」、「授業評価報告書」等)

- ・ 授業評価アンケート報告書
- ・ " 用紙
- ・ ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業
- ・ 平成20年度教育貢献賞申請書